
Magic Ring

佳絵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

M a g i c R i n g

【Nコード】

N 1 0 8 7 V

【作者名】

佳絵

【あらすじ】

魔王に勇者が討たれてから十年。
新たな勇者が選抜された。

どこにもある、魔王と勇者の物語。

P r o l o g u e は読まなくても大丈夫です。

Prologue A

「Prologue A」

「おにーさま！」

彼女にとって兄は自慢だった。

唯一と言っても過言ではない、彼女の誇りだった。

兄の隣にいるのは、聖女と呼ばれた僧侶。聖騎士と呼ばれた戦士。

雷の魔術師と呼ばれた魔術師。

魔王討伐に申し分のない、素晴らしい最高のパーティーだ。

「ぜったいまおーをたおしてね！」

無邪気に笑う彼女に優しく微笑みながら、兄は彼女の髪を撫でる。

さらさらの細い髪が兄の指を抜ける。

「約束するよ、アン。」

そして兄は悪戯っ子のように微笑んだ。

「何たつてお兄ちゃんは勇者だからな。」

十年前の約束。

果たされなかった約束。

その約束は、今でも彼女の心を蝕んでいる。

Prologue B

「Prologue B」

彼は孤児だった。

魔物に両親を襲われ、孤児になった。

よくある話だ。

そんな彼は、彼を引き取った教会の僧侶に恋していた。

「シスター・エステル。」

彼は祈りを捧げる僧侶の背後に立つ。

僧侶は、完璧なその美貌を彼に向け、花が開くように微笑んだ。

「どうしたのですか、ベル。もう遅いですから早く寝なさい。」

「——そうしたらシスターは僕を置いて行くんだ。」

すると僧侶は悲しそうに目を伏せた。

「僕たちを置いて、あの勇者と一緒に行くんだ。」

「ベル。魔王は誰かが討たなければなりません。」

「シスターじゃなくなっただっていいじゃないか。」

「いいえ。」

僧侶は、凜と微笑む。

「私は聖女と呼ばれています。人々に希望を与えなければならないのです。」

「——。」

「さあ、良い子だからもうお休み。」

彼は黙ったまま僧侶に背を向ける。

そして、その日を最後に彼が僧侶に会うことはなかった。

Prologue C

「Prologue C」

陽の当たらない牢屋のような造りの一室。
それが彼の世界だった。

だが、それはもう今日で終わらせる。

ペンやチヨークなど、与えてもらえるはずのない彼は、己の血で魔法陣を描く。

今までの絶望を込めて。

父への、母への、全ての生き物への呪いを込めて。

「——くふふ。」

頭が痛くなっても、目が霞んでも、彼の中は喜びが満たされている。

歪んだ喜び。

けれども、彼は今、人生で一番の喜びを感じていた。

ようやく複雑な魔法陣が完成すると、彼は目を閉じる。

☐ 火属性 レベル 4

水属性 レベル 4

風属性 レベル 4

土属性 レベル 4

雷属性 レベル 4

氷属性 レベル 4

対象範囲 限界』

光が生まれる。

いや、それは闇だったかもしれない。
どこまでも白い、強烈な魔術。

そして彼は自由になった。

P r o l o g u e D

「P r o l o g u e D」

彼に与えられた任務は、レジスタンスの制圧だった。

そして、そのレジスタンスの活動拠点は彼の生まれ故郷で、そのリーダーは彼を愛した人だった。

「デイーに殺してもらえんなら幸せかもね。」

そう言つて、彼を愛した人は笑う。

「本当に君は俺に迷惑しかかけない。」

彼は彼を愛した人を斬り捨てる。

「男は生かすな！ 女子供は捕らえろ！」

彼が吠えると、彼の部下は彼の言葉に従った。

放たれる火。

斬り捨てられる旧友。

縄をかけられる母や姉妹。

これは国のため。

平和のため。

しかし、この出来事が彼を狂わすには十分だった。

P r o l o g u e E

「P r o l o g u e E」

暗闇の中。

彼女は一人、玉座に腰掛けていた。

うねうねとした触手が彼女を包み込んでいる。

その触手に嫌悪感を抱くこともなく、彼女は身を任せていた。
そして、たった一つの望みを口にする。

「■して。」

しかし、それを耳にする生者はいない。

それを聞くのは、物言わぬかつての仲間だけ。

骨となり、彼女をを囲んでいる。

「■して。」

何度も何度も、思い出す度に彼女はその望みを口にする。

その望みを誰かが叶えてくれるその日まで。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1087v/>

Magic Ring

2011年10月7日23時58分発行